

GSC020-P06

会場:コンベンションホール

時間: 5月23日17:15-18:45

地球システム・地球進化ニューイヤースクールの今後の展望

Future prospects of New year school

大坪 誠^{1*}, 井上 卓彦¹, 田中 泰章², 清家 弘治³, 山口 飛鳥⁴, ニューイヤースクール 事務局⁵

Makoto Otsubo^{1*}, Takahiko INOUE¹, Yasuaki Tanaka², Koji Seike³, Asuka Yamaguchi⁴,
New Year School Office⁵

¹産総研・地質情報, ²東工大・情報理工, ³東大・理, ⁴高知大・コアセンター, ⁵なし

¹AIST/IGG, ²Tokyo Tech., ³Tokyo Univ., Sci., ⁴Kochi Univ., CMC, ⁵none

地球システム・地球進化ニューイヤースクール (NYS) では、地球 (惑星) 科学に魅力を感じ研究に取り組んでいる学生・院生・研究者が、集中的に広範な講義を受け、「地球 (惑星) 科学研究の今後のあり方」に意識共有を持てることを考えている。さらに、「スクールを通じ、参加者一人一人が意見・考えを伝えることができ、参加者間で意見・考えを共有することができ、そこから新たな考えを模索することができる」ことをコンセプトとしている。また、参加者が普段会えない様々な世代・分野・立場の人々と交流することにより、視野を拓き将来について考えたり、新たな研究を始めたりする「きっかけ」づくりの場を提供している。全国よりPD・大学院生を中心とした幅広い分野・世代・職業の参加者を毎回100名以上集めて開催されてきた。2002年から開催されてきたNYSは、今年で第8回を迎えた (各回のタイトルは下記参照)。

(これまでのスクールのテーマ)

第8回「地球を旅する水の科学」

第7回「地球科学をとりまく研究の進化と発展」

第6回「新しい切り口から地球を探る」

第5回「パイオニアから学ぼう、地球科学の基礎と未来」

第4回「[Past and Modern : Bridge to the future Earth] 過去と現在 : 未来への架け橋」

第3回「Earth, Ocean and life」

第2回「地球システム変動解明の最前線 ~新しい地球システム変動論構築へむけて」

第1回「海の進化を科学する」 (地球システム・地球進化 冬の学校として開催)

毎年、設定するテーマのもと、そのテーマに関する研究に取り組んでおられる様々な分野で第一線において活躍している研究者を5~7名招いて講演会を開き、参加者にテーマに関係する地球科学の未知なる諸問題に触れ、参加者が主体となってこれからの課題や問題点を考える機会を与えている。また、キャリアパスに関する情報が少なかった科学ジャーナリスト、科学コミュニケーターの方にも講演を依頼している。

配布資料 (レクチャーノート) には、講演要旨集に加えて、様々な立場の人の体験談、IODPに関する情報、研究生活に関する情報をまとめている。上記により、参加者の中心層である学部生・大学院生の学問的な視野を広げ、学際的な交流を促進し、今後の地球科学を支えていく幅広い地球科学分野の若手研究者を育てる手助けとするとともに、将来の研究テーマや就職先、そしてIODP等の国際プロジェクトに参画する意思を持つ若手層に具体的な情報を提供することを目的としている。

本発表では、ニューイヤースクールの紹介を行いながら、今後のニューイヤースクールの展望や

役割を紹介したい。

キーワード:地球惑星科学,意識共有,レクチャーノート,異分野交流,若手研究者,学部生・大学院生